

生者と死者、そして伝統

現世を構成しているのが生者だけだというのは、とんでもない勘違いです。死者は社会のまぎれもない構成員なのです。死者は死者であるがゆえに、声を発することはできません。しかし、生者は死者の声を聞きながら生きる、そういう観念を失った社会は“根無し草”のように危ういといわねばなりません。

イギリスの思想家ギルバート・チェスタトン是这样いっています。「単にたまたま今生きて動いているというだけで、今の人間が投票権を独占するなどということは、生者の傲慢な独裁政治以外の何物でもない。我々は死者を会議に招かねばならない。古代のギリシャ人は石で投票したというが、死者には墓石で投票して貰わねばならない」(『正統とは何か』安西徹雄訳、春秋社)

講師

公益財団法人オイスカ会長
拓殖大学前総長・元学長

渡辺利夫先生



プロフィール

昭和14年甲府市生まれ、慶應義塾大学経済学部、同大学院博士後期課程修了、経済学博士。筑波大学教授、東京工業大学教授、拓殖大学教授・同学長・同総長を歴任。現在同大学顧問、(公財)オイスカ会長。

〔専門分野及び主な論文・論考〕

経済学博士、専門は開発経済学、アジア経済論。専門書は多数。専門分野以外の著書に『私のなかのアジア』(中央公論新社、2004年)、『神経症の時代—わが内なる森田正馬』、『放哉と山頭火—死を生きる』(ちくま文庫、2016年)、『士魂—福澤諭吉の真実』(海竜社、2018年)等著書多数。

日時

令和6年12月7日(土)

午後2時～4時(開場 午後1時30分)

会場

靖国会館2階 偕行の間(東)(東京都千代田区九段北3-1-1 靖國神社内)

講演に先立って、靖國神社に昇殿参拝を行います。希望される方は12時30分までに靖國神社参集殿にお集まりください。

参加費 1,000円 (どなたでも御来聴を歓迎します。学生は無料。先着80名。予約可)